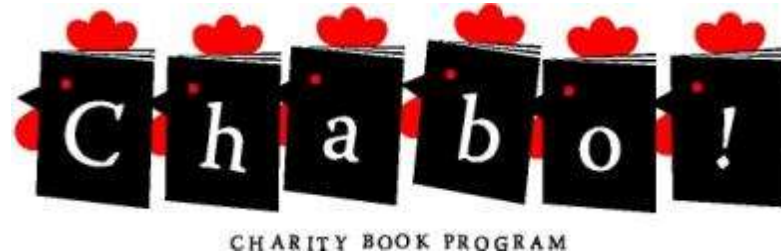
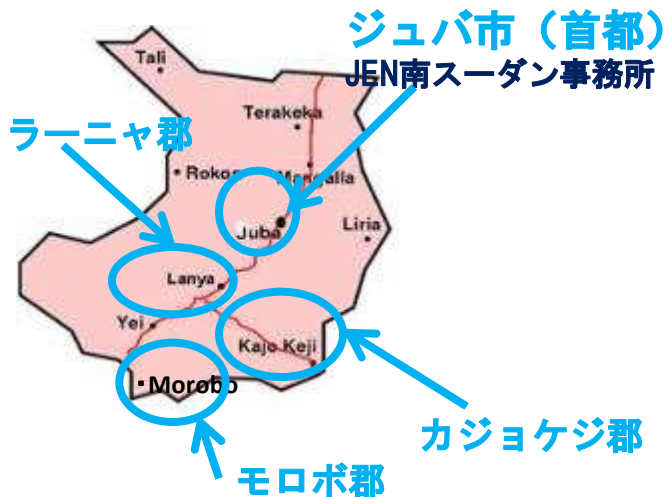


## 2-2 世界7ヶ国での「自立の支援」

- シリア難民緊急支援
- 南スーダン帰還民生活再建支援
- スリランカ帰還民生活再建支援



もっとも新しい国「南スーダン」で、  
衛生環境の普及を通じて  
故郷に帰還後の「自立」を支えています。



2011年7月、アフリカ大陸54番目の国「南スーダン共和国」が誕生しました。約20年間にわたる内戦を経てスーダン政府とスーダン人民解放運動(SPLM)が和平合意に達した2005年1月以降、近隣諸国から南スーダンへ、国内避難民370万人、難民35万人といわれる人びとの帰還プロセスが進んでいます(注1)。

ジェンは、2007年より、帰還民の再定住を促進するために小学校での水衛生環境の改善を行っています。

劣悪な水衛生環境は、帰還後の人びとの生活を脅かします。安全な水へのアクセスと適切な衛生知識が乏しいことで、水因性疾患のリスクが高まります。水汲みに長時間を費やすことは子どもたちの学習時間の短縮となり、大人にとっても過重労働は経済活動への参画を阻み、自立した生活の妨げになります。

JENは、昨年につき、学校と地域コミュニティの水衛生施設の整備と、効果を持続させるための仕組みの強化を行いました。参加型の手法を用いた衛生教育と、井戸管理委員会や修理工のネットワーク化により、「自立」の仕組みが着実に根付いています。

(注1) UNHCR調べ

## 「井戸はコミュニティの共有財産」 井戸修理工とコミュニティの連携

学校に作った井戸はコミュニティみんなで活用します。ただし、せっかく作った井戸も、メンテナンスの仕組みがない地域では、部品が手に入らなかったり、修復する費用がなかったりすると、壊れたまま放置されてしまいます<sup>(※)</sup>。また、壊れてもどこに修理工がいるかわからないため、長い間放置した末、修理費が高くなってしまいます。井戸の維持管理体制が整っていなければ、井戸を掘っても問題は解決されないのです。

JENでは、昨年からは、井戸修理工の組織化を進めています。修理工のトレーニングや協会の立ち上げ、コミュニティと連携した保守点検や修理の仕組みづくりを行っています。

その結果、カジョケジ郡で実施した事業では、9割が住民からの井戸利用料金の徴収を実施しているなど、事業の効果が継続しています。



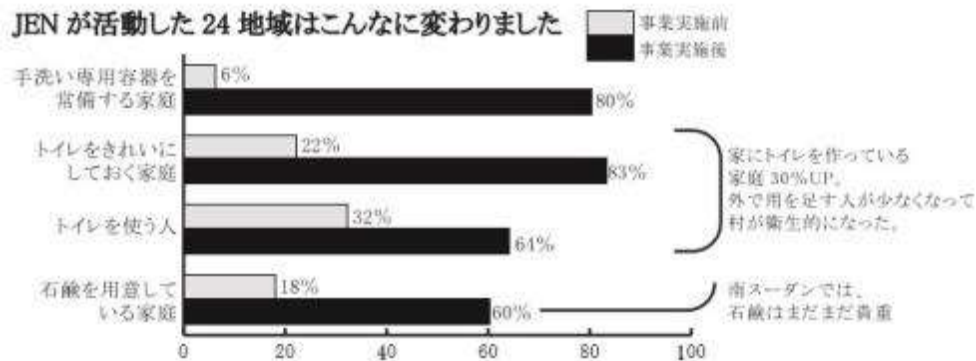
<sup>(※)</sup>南スーダン政府によると、2005年以降にできた井戸で使用できない状態の井戸の数は、中央エクアトリア州が南スーダン10州の中で2番目に多いという結果が出ています。

## 意識が変わる、衛生環境が変わる

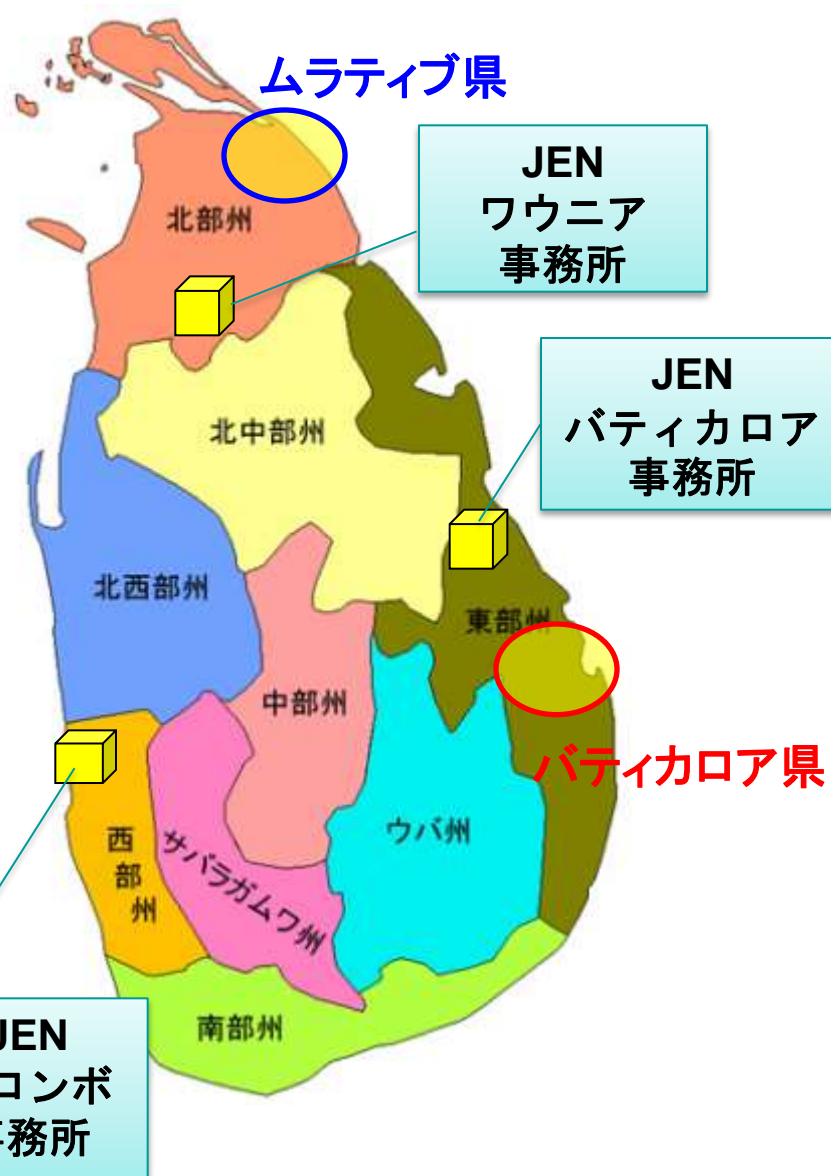
昨年引き続き、今年も水衛生環境の改善に取り組みました。カジョケジ群、モロボ群の24の学校で、井戸(24基)、トイレ(124基)の建設、そして各地域での衛生教育を実施しました。

教員に対するトレーニングを通じて、子どもたちに正しい知識を教え、それがコミュニティに広がっていく仕組みづくりに、ともに、取り組んでいます。

JEN が活動した 24 地域はこんなに変りました



ピクチャーカードをつかって衛生の知識を学びます。



待ちに待ったふるさとでの生活。  
経済的・心理的自立を目指す人びとの  
サポートを行っています。

25年以上にわたって続いた内戦終了から3年を経た2012年9月、北部の避難民キャンプが閉鎖になりました。多くの住民が故郷への帰還を始めましたが、故郷に帰った人びとの生活は厳しいものです。内戦の影響は色濃く残り、かつて農業を営んでいた土地は荒廃し、井戸も破壊され、家屋も仕事も失ってしまった人がほとんどです。

また、生計の目途が立たない故郷での生活を不安に思い、現在も親類宅やホストファミリー宅、福祉センターなどに身を寄せている人びとが多くいます。

紛争前の安定した生活を取り戻すには、ひとつひとつ生活を再建しなければなりません。2012年、JENは、北部と東部で、故郷へ戻った人びとの生計と心の回復を目指した支援を行いました。

## 最後の戦闘地、北部・ムラティブ県で。 1,222世帯に「水」を支援。

2012年1月、北部紛争最後の戦闘地・ムラティブ県での支援をスタートしました。

帰還が始まったばかりのこのエリアでは、紛争終了から3年を経過しても、地雷や不発弾が残されているなどから、長らく入域が許可されていませんでした。国連の給水や食糧支援が未だ続いており、稼働を始めたばかりの病院では設備が整っていないなど、あらゆる分野での支援が必要です。集落の井戸は破壊されたままで、人びとは生計である農業用水はもちろん、生活用水すら確保することができませんでした。

水を確保することで人びとの生活が安定し、安心して故郷に再定住できるよう、JENは、給水を通じた支援を行いました。井戸を修復・清掃するとともに、コミュニティワーカーや住民が協力して自主的に井戸の維持管理を行えるよう、一人ひとりにワークショップへの参加を促し、共同作業を通じて、紛争により離散したコミュニティを再び強化することを目指しています。



左:破壊されたまま放置されていた井戸  
右:修復が完了した井戸



**井戸(575基)の修復  
完成した井戸の清掃。**  
コミュニティ全体で井戸を  
維持していきます。

### ポンプ式井戸(13基) の建設

これまでは2時間以上かけて  
遠くまで汲みに行っていました。



# 故郷に帰ってから2年。 東部・バティカロア県での生計回復をサポート。 野菜栽培の収入が2倍に。

東部では、紛争により農業用の井戸を失い、帰還後2年を経ても、雨季の雨水に頼る農業を行っていましたが。そのため、乾季には収入が得られず生計が向上しないのに加え、衛生環境の悪化が懸念されていました。2012年、31基の農業用の井戸を建設し、248世帯の農家が1年を通して水にアクセスできるようになりました。農業研修を通じてコンポストや肥料を用いた農法を実施することで、平均月収は約2倍となり、スリランカの貧困ライン約3000ルピーを超えました。



## ◆イラク



## ◆アフガニスタン



## ◆パキスタン



## ◆ハイチ

